

APIR Now

● お知らせ

代表理事が交代しました。

6月22日付で岩城吉信(写真左)が代表理事を退任し、榎原則之(写真右)が代表理事に就任しました。今後ともAPIRへの変わらぬご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。



●力強くバトンタッチ

7月31日、グローバル人材育成・活用推進シンポジウムを開催します。

「今、問い直すグローバル人材育成—産学官の認識ギャップを超えて—」

APIRは産学官の有識者を招いて題記シンポジウムを開催します。シンポジウムではAPIRと立命館アジア太平洋大学(APU)との共同研究の成果も発表します。皆様のご参加をお待ちしています！

〈日 時〉 2015年7月31日(金) 15:00~17:20
 〈会 場〉 グランフロント大阪 ナレッジキャピタル タワーC 8階 カンファレンスルーム C01・02
 〈基調講演〉 「グローバル化と大学教育」 同志社大学長 村田晃嗣氏 (パネルディスカッション)
 ①問題提起1: 留学生の活用に関する課題—APIR・APUの人材育成研究報告から— APIR総括調査役兼プロジェクトリーダー 山下かおり
 ②問題提起2: 元留学生の企業人からみたグローバル人材の採用、育成に関する課題 株式会社パソナグループ取締役専務執行役員 山本絹子氏 同社 事業開発部大阪チーム ボグティッチ・サニヤ氏(元留学生、セルビア出身) 同社 事業開発部大阪チーム パシ・カニカ氏(元留学生、インド出身)
 ③パネルディスカッション:
 パネリスト: 文部科学省大臣官房国際課国際戦略企画室長 井上睦子氏 立命館アジア太平洋大学教授 鈴木勲一郎氏 同志社大学長 村田晃嗣氏 株式会社パソナグループ 取締役専務執行役員 山本絹子氏 APIR総括調査役兼プロジェクトリーダー 山下かおり
 コーディネーター: APIR副所長 澤 昭裕
 ▶登壇者が予告なく変更される場合があります。
 ▶お申込はAPIRホームページまで <http://www.apir.or.jp>

● 活動状況

2015年4月—6月

- 4月14日 林研究統括が共同通信社「きさらぎ会4月例会」で「ビケティさん、日本の格差の話をしましょう」と題して講演
- 4月24日 「東京一極集中の是正と地域における大学のあり方に関する調査研究」第1回研究会
- 4月24日 関西労働研究会
- 4月28日 APIRフォーラム「アジアに融けこむ日本企業—『信頼』のバリューチェーン戦略—」
▶6月24日 台湾国立政治大学大学院日本研究科訪日団との意見交換会
- 4月30日 「女性に関西で夢を描けるか? 鉄は熱いうちに打て」第1回研究会
- 5月11日 フランス国防省高等教育学院訪日団との夕食懇談会
- 5月12日 「交通網の整備拡充に伴う交通近接性の改善と期待できる経済効果の予測」第1回研究会
- 5月13日 監事監査
- 5月15日 関西労働研究会
- 5月19日 「女性に関西で夢を描けるか? 鉄は熱いうちに打て」第2回研究会
- 5月27日 「マクロ経済分析プロジェクト」第1回研究会
- 5月28日 「第104回 景気分析と予測」、「関西エコノミックインサイト No.26」記者発表
- 6月5日 平成27年度 通常理事会
- 6月5日 「東京一極集中の是正と地域における大学のあり方に関する調査研究」第2回研究会
- 6月19日 「高度外国人材受入促進のための実践的研究」第1回研究会
- 6月22日 平成27年度 定時評議員会
- 6月22日 平成27年度 臨時理事会
- 6月24日 台湾国立政治大学大学院日本研究科訪日団との意見交換会
- 6月24日 日米経済問題講演会「役員への女性登用:コーポレートガバナンスのグローバルトレンド」(駐大阪・神戸米国総領事館主催、関西経済連合会他との共催)
- 6月26日 「アジア太平洋地域の政治・経済的協力のあり方」第1回研究会 (ワークショップ)
- 6月26日 関西労働研究会
- 6月26日 稲田センター長が内閣府「平成27年度県民経済計算実務担当者会議」で「県内総生産の早期推計について」と題して講演



▶6月24日 台湾国立政治大学大学院日本研究科訪日団との意見交換会

● 編集後記

私たちが日々感じる社会や経済の「動き」。たとえば私が通勤で通るJR大阪駅では訪日客の姿を見ない日はなく、立ち寄った心齋橋のドラッグストアでは訪日客が爆買い中です。その「動き」は年々エスカレートしているように見えます。そこでAPIRのホームページで「関空モニター」(4月/5月)を見ると、「4月の訪日外客数は過去最高となり前年比+52.4%と27カ月連続の増加」、また「関西エコノミックインサイトNo.26」の中のドラッグストアの販売状況を見ると、前年同月比1月 関西11.4%増・全国3.1%増/2月 関西17.0%増・全国5.1%増と、関西が全国を

上回る数字が出ています。このように、日々の中で見えること・感じることに明確な根拠を与えてくれるのが、統計データ等の「数字」です。さらに「いまはこうなっているけれど将来は?」という疑問に答えてくれるのが、数字をもとにはじき出された「予測」です。稲田義久センター長の巻頭言にあるように、APIRでは「超」がつくほどの短期予測を毎週月曜日に配信中です。いまを知ることも将来を予測することも、APIRのホームページでできるのです。皆様へのアクセスをお待ちしています。(真鍋)

APIR Now No.4/2015年7月 [季刊]

一般財団法人 アジア太平洋研究所
ASIA PACIFIC INSTITUTE OF RESEARCH

評議員会会長: 井上礼之 (ダイキン工業株式会社取締役会長 兼 グローバルグループ代表執行役員)
 理事・所長: 宮原秀夫(大阪大学 元総長)
 理事・副所長・事務局長: 澤 昭裕(21世紀政策研究所研究主幹)
 代表理事: 榎原則之
 研究統括: 林 敏彦(大阪大学名誉教授)
 数量経済分析センター センター長: 稲田義久(甲南大学副学長)
 アドバイザー: 猪木武徳(青山学院大学特任教授)/鷺田清一(京都市立芸術大学 理事長・学長)

〒530-0011 大阪市北区大深町3-1 グランフロント大阪 ナレッジキャピタル タワーC 7階
 TEL 06-6485-7692 (アウトリーチ推進部) FAX 06-6485-7689
 E-mail contact@apir.or.jp ホームページ <http://www.apir.or.jp>



【発行】一般財団法人 アジア太平洋研究所
 発行人: 榎原則之
 編集担当: 岡田直樹・真鍋 綾 (アウトリーチ推進部)
 本誌に関するご意見・ご感想をcontact@apir.or.jpまでお寄せ下さい。
 本誌掲載の役職名は会合開催当時のものです。
 本誌掲載記事・写真の無断転載を禁じます。

☆メルマガ「APIR」配信登録は左記ホームページよりどうぞ!

2014年度の成果報告をご紹介します

アジア太平洋地域の未来をイメージ

APIR



予測とは、社会や経済の先行きを知る「天気予報」

社会や経済の動きを数字であらわした統計データ。これを用いて、他に例のない週ごとの景気予測を発表しているのが、昨年APIRに設置された数量経済分析センターです。センターが生み出す成果とデータの重要性について、稲田義久センター長に聞きました。

景気予測の長い伝統を持つ関西

エコノメトリックス、という言葉を知ったことがあるでしょうか。日本語に訳せば計量経済学。簡単に言うと「数字をベースに経済や社会を語る学問」です。これを応用・発展させたのが、経済指標や所得統計などのデータを相互にリンクさせて、将来をおしはかる「予測」です。

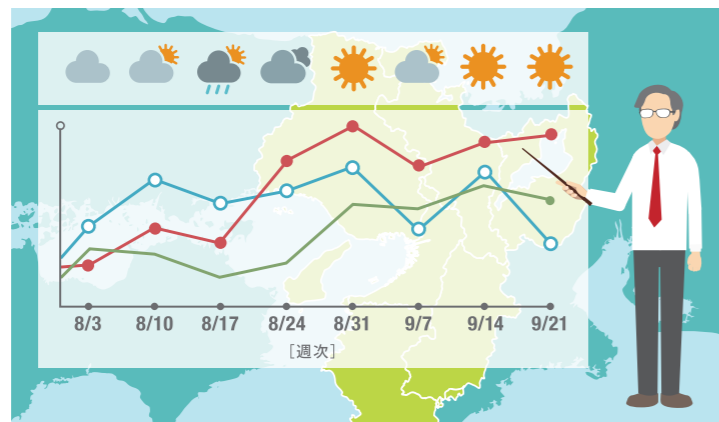
関西は計量経済学と予測にとって非常に重要な地です。1970年代、大阪大学の森口親司名誉教授ら日本の先端に行く研究者が、APIRの前々身である関西経済研究センターで計量モデルを用いた景気予測を行っていました。しかもそのプロジェクトに研究者や企業の若手を加え、後進を育てながら日本の計量経済学を牽引していたのです。

ノーベル賞学者・クライン教授との出会い

70年代当時、大学院生の私はゼミの指導教官だった神戸大学の斎藤光雄教授を通じて、このプロジェクトに加

わりました。そして、計量経済学の創始者の一人であり、1980年にノーベル経済学賞を受賞した経済学者、ペンシルベニア大学ローレンス・クライン教授に出会うことになるのです。

先生の研究は、当時の私にとって衝撃的でした。なぜなら、計量モデルを使った経済予測や政策シミュレーションによって、世界の問題を解決す



週次のスパンで景気動向がわかる超短期予測は「経済の天気予報」と言える

る処方箋を提供していたからです。「すごい！こんな手法があるんだ」と感動したことを覚えています。

データ・ディペンデントの時代に対応した超短期予測モデル

80年代後半に、クライン教授によって考案され、90年にスタートしたのが「超短期モデル」による予測です。私た

ちはこのモデルを使って、月ごとに発表される50系列以上の月次データと四半期GDP(国内総生産)をリンクさせ、週次という高い頻度で今四半期と次四半期に限定して、経済を予測する試みを始めました。その成果が、毎週APIRのホームページに発表している「日米経済週次予測」です。

なぜ超短期の経済予測が必要なのでしょう。米国のFRBでよく言われるように、時代は「データ・ディペンデント」(data-dependent)なのです。個人的な思惑を排し、データが示す「いま」をもとに政策を立てることが肝要です。よりリアルタイムでしかも精度の高い経済予測があれば、社会に有用な政策を迅速に打つことができます。*1

企業でも同じこと。昔は年1回でよかった会計報告がいまや四半期に1回と短縮されているように、フォアキャストならぬ、より早く正確なナウキャストが求められています。

超短期の経済予測は、数時間先あるいは1時間先の降水を予測する「降水短時間予報」や「降水ナウキャスト」に似ています。言ってみれば、経済の

動きや景気の変化をいち早く知るための経済天気予報です。APIRの週次経済予測は、企業人はもちろん、政府の政策担当者も見てると聞いています。

超短期予測モデルの応用例「県内総生産の早期推計」

地方自治体のGRP(地域のGDP)統計がいつ発表されるか、ご存じでしょうか。2012年度の統計が、今年ようやく発表されました。このため、3年前の統計をもとに、地域の次年度予算が組まれているのが実態なのです。もし、月次データから地域のGRPをすばやくはじき出すことができれば、現状に応じた施策を打てると思いませんか。また、政策の効果もスピーディーに評価できるのではないのでしょうか。

APIRでは、超短期予測モデルを応用して、関西2府4県についてGRP早期推計を行っています。的中率は、いまのところ99%(誤差率は1%以下)。すでにこの手法を政策評価に役立っている自治体もあります。*2、*3

数字があぶり出す関西復権のカギ

数字の持つ力をもう一つ、具体的に示したいと思います。APIRが発行した『2014年版関西経済白書』では、徹底した数量分析をもとに、経済低迷から脱出するための“芽(成長戦略)”を提言しています。

関西復権のカギは、実は「女性」にあります。関西の女性の就業率は、全国に比べて圧倒的に低い。しかし、女性が働きやすい環境を整備して就業率を全国平均並みに押し上げれば、関西のGRPは約1.5兆円増加すると、シミュレーション結果は物語っているのです。

世界・地域と「数字」でつながる

ありがたいことに、APIRには「関西経済の動向をぜひ知りたい」と、国内外からエコノミストや専門家が多くの訪ねてこられます。内閣府や日銀のほか、最近では米国、オーストラリア、イギリス、ミャンマー、台湾からも来訪者がありました。

来訪者もグローバル化していますが、APIRの研究者もグローバル化しています。いまAPIRには、日本、中国、韓国、インドネシア、オーストラリア、フィリピンからのインターン生がいます。人的交流、人材育成の環境が整っていて、研究を通じてのOJTを行っているのもAPIRならではの思いです。

いまAPIRでは、数量経済分析センターで行う日本・米国の超短期予測だけでなく、林敏彦研究統括による世界約120カ国の超長期予測(2100年まで)もあります。冒頭で申し上げたように、APIRは関西で花開いた景気予測を受け継いだ経緯があります。

2011年にAPIRに生まれかわったことで、アジア・世界への発展性を持つとともに、府県GRP早期推計の開発によって地域にも目を向けています。いずれはこの手法を、ASEANにも展開していきたいと考えています。「数字」という世界共通のツールによって、世界・地域とのつながりを忘れないようにしたいと考えています。

- *1: 6月19日、超短期予測の手法がテレビ東京系列「Newsモーニングサテライト」で紹介されました。
- *2: 「大阪の成長戦略」において、成長目標のチェック等に使用されています。
- *3: 6月26日、平成27年度県民経済計算実務担当者会議(内閣府)において稲田センター長が「県内総生産の早期推計について」と題して講演しました。



いなだ よしひさ
稲田 義久

一般財団法人 アジア太平洋研究所
数量経済分析センター センター長

神戸大学大学院経済学研究科博士後課程修了。神戸大学経済学博士。神戸学院大学助教授、米国ペンシルベニア大学客員研究員、国際東アジア研究センター客員研究員、立命館大学助教授、甲南大学経済学部長、甲南大学学長補佐等を歴任。1995年より甲南大学教授(現職)、2014年8月より副学長。2011年関西社会経済研究所(現APIR)所長、アジア太平洋研究所研究統括を経て、2014年7月より現職。

2014年度の成果報告、 ぞくぞく発表!

アジア太平洋の未来への明確な指針となるために



- APIRは2014年度、3つの柱のもとに研究プロジェクトを実施しました。
- 7月時点で資料刊行や商業出版によって成果発表されたものをご紹介します。
- URLを記載しているAPIR資料はホームページでご覧いただけます。

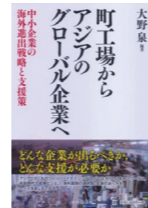
URLを記載していないAPIR資料は冊子による配布、あるいは今後ホームページに掲載予定です。
お気軽にお問い合わせください(お問合せ先:contact@apir.or.jp)。

1 日本がアジアとともに成長するために

1つめの柱 アジア太平洋地域の経済成長と発展形態

- 1 **研究プロジェクト** 「中小企業の東南アジア進出に関する比較研究」
[リサーチリーダー 大野 泉氏(政策研究大学院大学教授)]

- 『町工場からアジアのグローバル企業へ 中小企業の海外進出戦略と支援策』(中央経済社)
- APIR資料15-05 『中小企業の東南アジア進出に関する比較研究 2014年度活動報告書』
http://www.apir.or.jp/ja/research/files/2015/05/2014_research_report_Ono.pdf



- 2 **研究プロジェクト** 「日系企業アジア地域のサプライチェーンのあり方」
[リサーチリーダー 鈴木 洋太郎氏(大阪市立大学教授)]

- 『日本企業のアジア・バリューチェーン戦略』(新評論)



- 3 **研究プロジェクト** 「日本の対アジア太平洋外交政策と通商政策のあり方」
[リサーチリーダー 大矢根 聡氏(同志社大学教授)]

- APIR資料15-06 『TPPをめぐる外交と国内政治』
http://www.apir.or.jp/ja/research/files/2015/05/2014_research_report_Oyane.pdf



- 4 **研究プロジェクト** 「日米の超短期経済予測」
[リサーチリーダー 熊坂 侑三氏(ITEconomy Advisors, LLC)]

- APIR資料15-02 『ミャンマーとカンボジアにおけるCQM構築の可能性調査』
http://www.apir.or.jp/ja/research/files/2015/05/2014_research_report_Kumasaka1.pdf



- 5 **研究プロジェクト** “Japanese agriculture: towards a sustainable, trade-oriented future”
[リサーチリーダー James Brady (APIR研究員)]

- APIR資料15-09 Interim report —Japanese agriculture: towards a sustainable, trade-oriented future—

※この研究プロジェクトは、2015年度研究プロジェクトの事前研究です。



2 ピンチをチャンスにつなげるために

2つめの柱 人口減少・高齢化社会における需要構造の変化

- 1 **研究プロジェクト** 「東アジアにおける持続可能性のある高齢化社会構築のための方策」
[リサーチリーダー 木村 幹氏(神戸大学教授)]

- APIR資料15-03 『東アジアにおける持続可能性のある高齢化社会構築のための方策』
http://www.apir.or.jp/ja/research/files/2015/04/2014_research_report_KKimura_.pdf



- 2 **研究プロジェクト** 「高齢化社会における市場の変化の方向性」
[リサーチリーダー 加藤 久和氏(明治大学教授)]

- APIR資料15-08 『高齢化社会における市場の変化の方向性』
http://www.apir.or.jp/ja/research/files/2014/04/2014_research_report_kato1.pdf



3 激動の時代、関西の道しるべとなるために

3つめの柱 関西の成長戦略

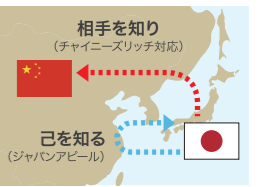
- 1 **研究プロジェクト** 「中小企業等のイノベーションの原動力分析」
[リサーチリーダー 小川 一夫氏(大阪大学教授)]

- APIR資料15-10 『関西の中小企業のイノベーションの原動力分析 一人材育成・活用とネットワークの重要性—』
http://www.apir.or.jp/ja/research/files/2015/07/2014_research_report_Ogawa.pdf



- 2 **研究プロジェクト** 「関西における21世紀型ツーリズム構築」
[リサーチリーダー 森 剛志氏(甲南大学教授)]

- APIR資料15-04 『関西における21世紀型ツーリズム構築 一訪日チャイニーズ旅行者をいかに捉えるか—』
http://www.apir.or.jp/ja/research/files/2015/05/2014_research_report_Mori_Hayashi.pdf



その他

社会情勢の変化に機動的に対応

- 1 **研究プロジェクト** 「エネルギーインフラ研究会」
[共同リサーチリーダー 澤 昭裕 (APIR副所長)、山本 隆三氏(常葉大学教授)]

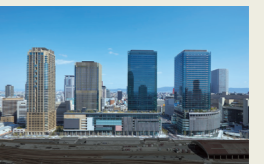
- APIR資料15-07 『関西地区のエネルギーシステムのレジリエンス評価』



- 2 **研究プロジェクト** 「うめきた研究会」

- 「世界の中の『うめきた(大阪)』戦略を考える」をコンセプトに、公共空間創出、医療・健康、脳科学、大学、防災とさまざまな切り口から、うめきたの可能性を探りました。

- APIR資料15-01 『「うめきた研究会」講演概要集』



- 3 **研究プロジェクト** 「高度外国人材受入促進のための実践的研究」
[プロジェクトリーダー 山下かおり (APIR総括調査役)]

- 本プロジェクトの研究成果は、7月31日開催予定のグローバル人材育成・活用推進シンポジウム「今、問い直すグローバル人材育成—産学官の認識ギャップを超えて—」で発表予定です(本誌最終ページご参照)。

第104回 景気分析と予測/関西エコノミックインサイト No.26

堅調な回復つづく関西、民間需要と外需が成長下支え

APIR内の研究ユニット、数量経済分析センター(センター長:稲田義久 甲南大学副学長)では、日本経済・米国経済そして関西経済の予測と分析を定期的に行っています。



関西は全国より高い成長率で推移

5月28日発表の予測は以下の通り。

| (単位%) | 2014年度 | 2015年度 | 2016年度 |
|-------|--------|--------|--------|
| 全国GDP | -1.0 | 1.7 | 2.0 |
| 関西GRP | 0.1 | 2.0 | 2.3 |

企業部門は収益環境改善(円安・株高・原油価格下落)から足下の景況感明るく、特に鉱工業生産は全国を大きく上回る水準で推移、家計部門にも持ち直しの動きが見られます。また関西の家電量販店やドラッグ

ストアの販売額は全国より好調で、訪日客の「爆買い」が景気を下支えすると見えています。

5月29日付 産経新聞、毎日新聞、読売新聞、神戸新聞 各朝刊に記事掲載されました。

トピックス APIRだけのプロジェクト「関西各府県のGRP早期推計」～府県の景気を早く知りたい!～

国民経済計算の四半期速報の公表には2か月半かかります(例:2015年1-3月期GDP1次速報は5月公表)、県民経済計算は2年以上かかります。この認知ラグをできるだけ解消したいという思いから、APIRでは「速報性と正確性が両立する県内GDPの早期推計」を開発

しました。足下の景気の現況把握と見通しは、地方自治体の税収予測や広域政策の評価、企業の需要見積りに広く役立ちます。

今回は2013-14年度の関西各府県のGRP早期推計結果を公表。14年度は大阪府・京都府が関西の成長に貢献したことが明らかになりました。

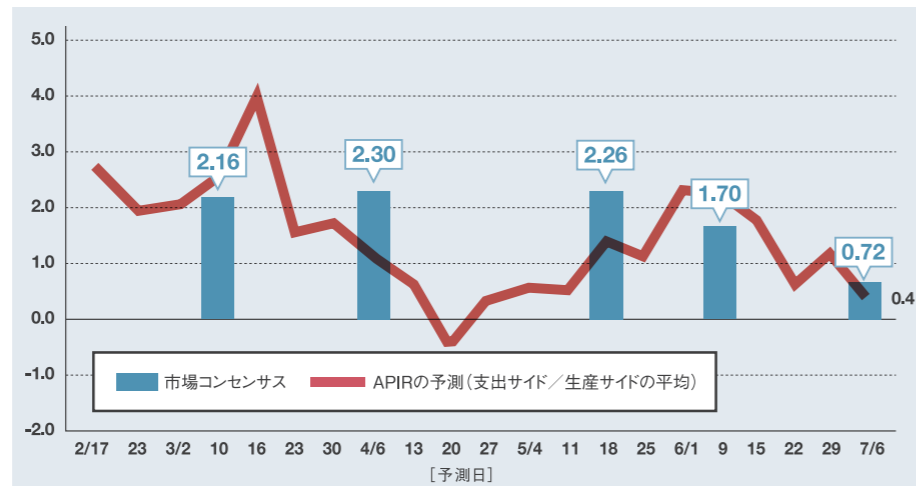
詳細はこちら 経済予測: Quarterly Report(日本) <http://www.apir.or.jp/ja/research/asis-economy/quarterly-ja/>
 経済予測: Quarterly Report(関西) <http://www.apir.or.jp/ja/research/asis-economy/quarterly-kansai/>

APIRの超短期予測がテレビ東京系列で紹介されました!

6月19日に放映されたテレビ東京系列の番組「Newsモーニングサテライト」の旬の経済用語を解説するコーナーの中で、アトランタ連銀がアメリカの国内総生産=GDPの成長率を予測する指標「GDP Now」が取り上げられ、これに近いものとして、稲田センター長が週1回の頻度で更新している「日米経済超短期予測」が紹介されました。

また、超短期予測の手法を用いて国の統計より約2年早く公表している「関西各府県のGRP早期推計」も紹介されました。

●日本経済 超短期予測の動態:日本の実質GDP成長率 2015年4-6月期 (%、前期比年率換算)



APIRは市場コンセンサスよりいくぶん低い成長率を予測(6月19日放映時のものに直近のデータを追加しました)

TOPIC 1

Kansai in the Asia Pacific -APIR Economic Review 2014- (英語版『関西経済白書』)を刊行

アジア太平洋地域への情報発信ツールとして、最新の『関西経済白書』をベースに海外読者の関心が高いと思われるコンテンツを選んで再編集したものです。関西駐在の各国在外公館関係者や関西立地の国際機関等に提供します。



A5版 非売品、お問合せはAPIR 研究推進部 白書担当まで。

シンポジウム

TOPIC 2

「原子力の将来を考える」を開催



3月18日、APIRは関西経済連合会と共催でシンポジウムを開催しました。佐藤廣士 関経連副会長の挨拶の後、エネルギー問題の専門家でもある澤 昭裕 APIR副所長が原子力の現状について、山口 彰 東京大学教授が原子力規制について、西塔雅彦 原子力発電環境整備機構専務理事が高レベル廃棄物について、それぞれ基調講演を行いました。

後半は、竹内純子 国際環境経済研究所理事・主席研究員が加わり、パネルディスカッションを行いました。

開催日:2015年3月18日 会場:グランフロント大阪
 主催:一般財団法人アジア太平洋研究所、公益社団法人関西経済連合会
 協力:一般社団法人ナレッジキャピタル 参加者:180名

3月19日付 毎日新聞朝刊に記事掲載されました。

TOPIC 3

APIR研究者がレポートをぞくぞく配信! ~テーマも国籍も多様に展開中~

APIRの研究者らがぞくぞくとレポートを配信、テーマも執筆者の国籍も多様です。特にAIIB(アジアインフラ投資銀行)加盟問題では日本・フィリピン・韓国・オーストラリアと、執筆者の出身国における現状を分析しています。



※各レポートは執筆者の見解に基づき作成されたものであり、APIRの見解を示すものではありません。

ー4月~7月初めに配信したレポートー (ホームページ掲載順、敬称略)

- 【APIR Commentary】
- ー最新の社会経済や政策の動き等についての考察ー
- No.41 「東京圏が作り出す地域経済格差」林 敏彦
- No.42 「世界の中の関西経済」林 敏彦
- No.43 「AIIBの実態は中国の国内銀行 日本が果たせる役割は限定的」木下祐輔
- No.44 「フィリピンは最終的にAIIBに参加するか」 Tiusonco Jose II Opalalic
- No.45 「グローバル化における地域志向のすすめ」小川一夫
- No.46 「AIIB参加が韓国で議論にならなかった理由とは」 金 賢九
- No.47 「日本は世界の『クール』な旅行先?」林 万平
- No.48 「日本経済は長期的に2%成長を維持できるか」 林 敏彦
- No.49 「長期停滞仮説論争」林 敏彦
- No.50 「オーストラリアのAIIB参加表明の背景とは」Miles Neale

- 【APIR Trend Watch】
- ー特定のトピックスに注目したレポートー
- No.25 「シンガポールに見る新しい空港の形ーオリンピックブームと観光戦略ー」森 剛志、津崎章裕
- No.26 「日中韓三国協力国際フォーラム2015 参加報告」金 賢九
- No.27 「関西経済が抱える長期的課題とは?ー新しいタイプの『関西経済モデル』の探求からー」岡野光洋、井田大輔
- No.28 「『相手を知る』観光客国別対応マニュアルー観光大国フランスから学ぶー」森 剛志

- 【APIR Discussion Paper】
- ー分析的・実証的な学術研究の成果ー
- No.38 “Development of a Regional DSGE Model in Japan: Empirical Evidence of Economic Stagnation in the Kansai Economy”岡野光洋、井田大輔、北野重人、松林洋一
- No.39 「日本経済の超長期予測」林 敏彦

全文はAPIRのホームページに掲載中(<http://www.apir.or.jp>)。トップページの [インサイト](#) をクリック!